

## 神山と江田の歴史ものがたり

# 神山と江田のこと、 もっと知りたい②

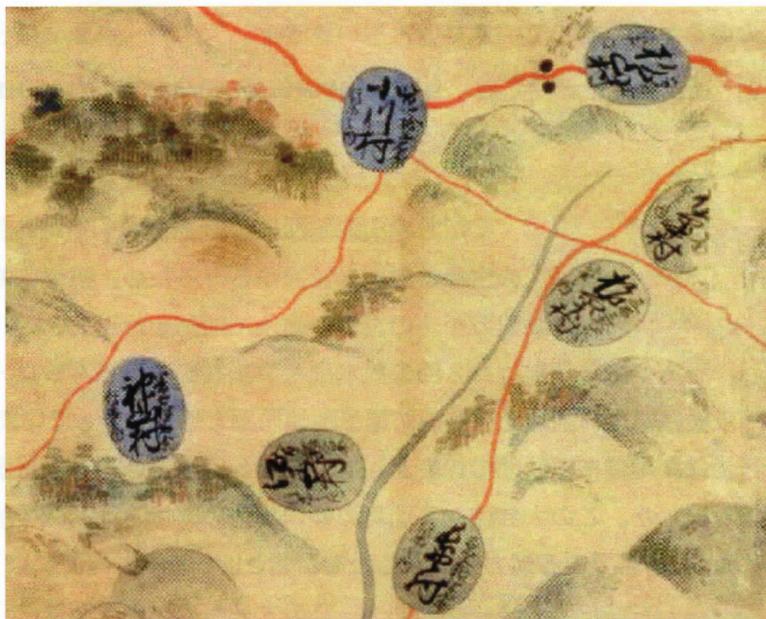
皆さん、滋賀県立図書館のホームページをご覧になったことありますか？

図書の検索や催し物の案内はもちろんですが、その中に『近江デジタル歴史街道』の案内があります。

県立図書館が所蔵するいろいろな資(史)料をデジタル化して公開してくれているページです。その中に、今回紹介する『近江国絵図』があります。江戸時代、徳川幕府は、四度にわたって全国諸藩に地図を作成させました。

一番最初が正保二(一六四五)年で、下図(部分)に示したものです。残念ながら、この地図は公開されていません。その次が、元禄十四(一七〇二)年作成です。

「幕府所蔵の正保の近江国絵図をもとに作成されました。このとき、膳所藩本多家と水口藩鳥居家、彦根藩井伊家が幕府の命を受けて、近江国十二郡をそれぞれ担当して、新田・村落名の変更、各河川の川筋などの変化について現地調査にあたり、作成されました。縮尺は二万六百分一。近江国十二郡の郡界を太黒線で示し、村落は郡別に色分けされています。朱線が街道で、東海道・中



山道などには、一里を六寸(約三・九kmを約十八cm)とする一里塚(街道を挟む黒丸)が示されています。(滋賀県立図書館EJより)現在のようなくかりした地図ではなく絵図ですので、はっきりしたことは分かりませんが、現在の地図と比べるといろいろと見えてきます。

まず街道、神山と江田を結ぶ街道がなかったことと同時に、江田に通じる大きな道が無かったこと。次に川。現在の太黒線が記されず、長野で大戸川と分かれ、小原地先を源流とする『信楽川』が大

きく記されています。

小川と杉山を結ぶ道には、本来、大きな街道にしか立てられない『一里塚』が立てられていたようです。

今から三百五十年余り前の地図から、両区の姿、少し見えてきませんか？

次に機会がありましたら、絵図ではなく史料で、もっと昔の姿を探っていきたいと思います。

(このページに関して、ご教示、ご意見がありましたら事務局までお知らせ下さい)